

ひろば

Vol.136

HIROBA

発行日：2018.6.1 発行人：田沼 武能

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)
<http://www.kougei-dousoukai.jp> dousoukai@kougei-dousoukai.jp (受信専用)



卒展×同窓のつどい
卒業制作展
細江英公写真展レセプション
フォックス・タルボット賞
学位授与式・卒業祝賀会
ひろばのページ

東京工芸大学同窓会主催 卒展×同窓のつどい

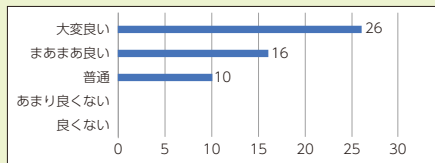
「卒展×同窓のつどい」とは、2017年2月からリニューアルされた中野キャンパスで開催されることになった大学の卒業制作展に合わせて、同窓会として後輩達への激励、旧交を温める空間の提供を目的に企画されたイベントです。軽食と飲み物を用意し同窓生と恩師、後輩達(現役の学生さん)が「おしゃべりの場」として気軽に参加できるシンプルな会で、毎年多くの方々にご参加、ご好評を頂いています。



卒展×同窓のつどい満足度

| | 人数 |
|---------|----|
| 大変良い | 26 |
| まあまあ良い | 16 |
| 普通 | 10 |
| あまり良くない | 0 |
| 良くない | 0 |
| 合計 | 52 |

アンケート回収数65枚だが感想の未記載が多かった



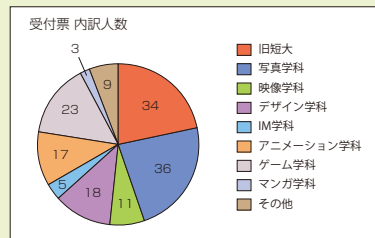
卒展×同窓のつどいアンケート調査

その他コメント欄

- ・お陰様で研究室のOBにも会うことが出来、いろいろと最近の様子を聞くことが出来た。学年が違うOB同士の繋がりも出来たりしているので大変すばらしいイベントだと思う。(40代)
- ・今後も是非やってほしい!(30代)
- ・卒展もみれて楽しい。(30代)
- ・同窓会と卒展を一緒にやってくると同級生と会いやすい。食べ物が去年と同じだったのは良くないと思う。(20代)
- ・からあげが美味しかった。(20代)
- ・シュークリームが美味しかった。(20代)
- ・焼きそばが美味しかった。(30代)

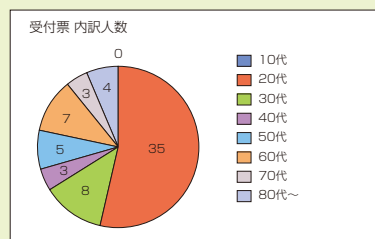
受付票内訳

| | 人数 |
|-----------|-----|
| 旧短大 | 34 |
| 写真学科 | 36 |
| 映像学科 | 11 |
| デザイン学科 | 18 |
| IM学科 | 5 |
| アニメーション学科 | 17 |
| ゲーム学科 | 23 |
| マンガ学科 | 3 |
| その他 | 9 |
| 合計 | 156 |

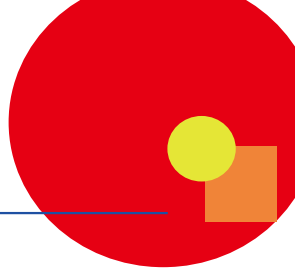


アンケート年代別内訳

| | 人数 |
|------|----|
| 10代 | 0 |
| 20代 | 35 |
| 30代 | 8 |
| 40代 | 3 |
| 50代 | 5 |
| 60代 | 7 |
| 70代 | 3 |
| 80代~ | 4 |
| 合計 | 65 |



「卒展×同窓のつどい」に寄せて



2018年(平成30年)2月23日(金)～25日(日)の卒業制作展期間に開催されました「卒展×同窓のつどい」の報告をさせていただきます。一昨年迄は学外の会場で開催され昨年からは大学中野キャンパスで開催されており卒業制作展。今年度は会期中の24日夕刻に「卒展×同窓のつどい」が行われました。ホームグラウンドの中野キャンパス各所で展覧されている作品を鑑賞し、プレイス(学食)で仲間が集うなごやかな会となりました。

各学科の出品者は勿論のことですが、当日は大先輩から最近の卒業生迄が集まって下さいました。会場のプレイスには恩師と現役の先生、卒業各期の同窓会役員の参加もあって主催した担当はホッとしました。中野キャンパスでの開催の情報を知って懐かしさで集まって下さった方も多く、少し早く来学され研究室を訪ねたり

キャンパスを見学している先輩方も見受けられました。

学科が増え、以前とだいぶ様子が変わったかと思いますが、この企画を通して同期生が、また先輩後輩の縦の結びつきが強くなり、この企画

が長く続くことを担当者として願っております。今年度観ていただけなかった卒業生の皆様、来年こそは「ひろば」の情報、そして大学のホームページ等チェックして下さいることを担当者の一人として願っております。

池田 陽子(39期)

卒業を振り返りながら同窓会をしよう!! 東京工科大学同窓会主催 ご案内

卒展×同窓のつどい

「東京工科大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2018」は、リニューアルされた中野キャンパスで開催されます。同窓会として卒業生を招き、互いに、旧交を温める空間を創出しようという「卒業×同窓のつどい」を企画しました。同窓生のみならず、卒業生に求められた際には、同窓会の場での講話なども取り入れて、親交の温かい時間を共有してまいります。

●卒業制作展に登場された方はもちろん大歓迎です。
●同窓生と懇話、後輩達が集う「しゅべりの場」としてお気軽にご参加下さい。
●同窓会の方には記念品を差し上げます。

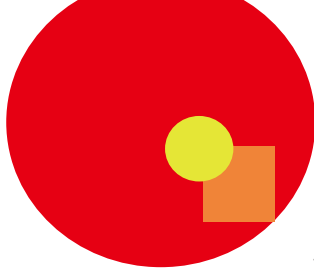
東京工科大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2018

| | |
|----|--------------------|
| 会場 | 23日(金) 13:00～20:00 |
| 会場 | 24日(土) 10:00～19:00 |
| 会場 | 25日(日) 10:00～17:00 |

東京工科大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2018 会場(アートア) 自由軒(デザイン学科4期)

Access map

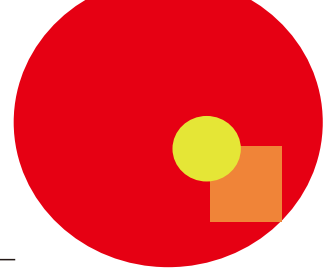




「卒展×同窓のつどい」



盛大に、賑やかに開催



卒業制作展



義江学長



テープカット



吉田大学院芸術学研究科長



オープニングセレモニーに集まった学生・教職員



吉野芸術学部長



各学科代表の学生たち

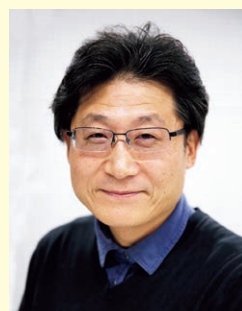
卒展委員長のことは

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2018は、2018年2月23日から25日まで3日間に渡り中野キャンパスで行われました。3,004名のご来場者が見守りながら無事に終わることができました。中野キャンパスでの展示2年目の今年は7学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、マンガ、ゲーム)揃って、じっくりと準備することができ、落ち着いた雰囲気の中で盛況に終わることができましたことをご報告するとともに、ご協力いただきました同窓会の皆様にはお礼申し上げます。

前卒業制作展委員会委員長の田邊順子先生のお話にもありましたように「学内開催ならではの利点や優位点」をできるだけ伸ばしていき、「改善していかなければならない問題」を解決していくことに、卒業制作展委員会の委員の先生と学生課の職員一同は知恵を絞って参りました。

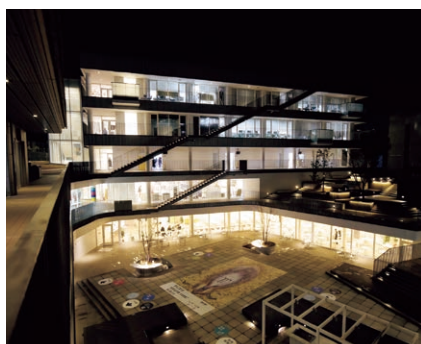
オープニングセレモニーには義江龍一郎学長をはじめ吉野弘章芸術学部長、吉田 成大学院

芸術学研究科長とともに、各学科の代表学生によりテープカット行事を導入して卒展のスタートを華やかに祝うことができました。各会場へのアクセス用の誘導サイン配置も分かりやすくするために議論を重ねました。1号館と2号館の間の中庭にはデザイン学科4年堀 由梨花さんによるメインビジュアルイメージを利用した飛び出しアート作品を設置、連日来場者で賑わいました。



4年間の学生生活の集大成である卒業研究の結果が学生生活の思いとともに、各会場で心地よく展示できること、そして来場された皆様にとって感動や驚きをもって作品と出会えるための場所であることを意識しながら次年度に向けて一歩踏み出します。同窓会の皆様にはご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

卒業制作展委員会委員長 映像学科 李容旭



対談



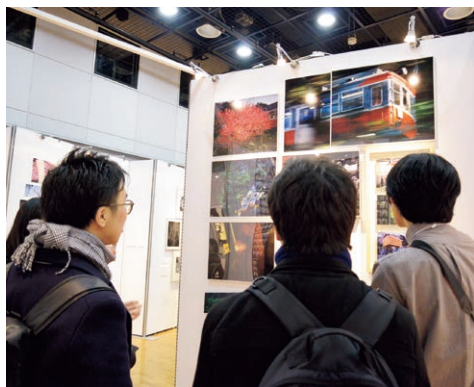
梁 丞佑氏



吉野弘章芸術学部長



梁 丞佑氏と吉野弘章芸術学部長との特別対談



卒業のことば

高校3年の時、私はカメラマンになりたいと思いました。音楽が好きで、音楽雑誌を見て、私も撮る側、伝える架け橋みたいなものになりたいと思ったのが写真を始めたきっかけでした。「シャッターボタンを押せば写真が撮れる」。入学した時はそのぐらいの知識しかありませんでした。作品とは何なのか。表現とは。大学に入ってから考え続け、今でも確かな答えはありません。大学での学びや写真集、写真や絵画の展覧会を見ることで世の中の写真表現には様々なものがあることを知りました。それらを知る度に自分の引き出しが増えていく、作品制作の

写真学科 神田萌野

きっかけや刺激になることがたくさんありました。大学の友人とする写真の話や、先生方の写真に対する熱い思いやアドバイスなどに多く影響を受け、写真に対し、より真剣に向き合えることができた4年間でした。作品は人の性格が出るものだと感じる事が多くあります。人に伝える写真、伝わる写真、これは今後の私にとって写真を撮り続けていく中で一番考えるべき課題です。





卒業のことは

皆様、初めまして。東京工芸大学 映像学科 坂田 航です。私は高校までサッカーをやっており、最後の大会で試合に出ることができず、プロの道を諦めることにしました。未だに自分の友人がプロ契約や日本代表として活躍しているのを見て嫉妬しています。

そこでサッカーの次に何が好きかと考えると、小さい頃から観ている映画やCMといった映像を仕事にしたいと思い、当大学に入学しました。

この大学は私の人生を180度変えてくれました。そのきっかけを作ってくれたのは一緒に映像を製作してくれた仲間たちです。思い返せば、スタッフ、キャスト、約30名で製作した映画は10本。いろんな映画祭に参加する

映像学科 坂田 航

ことができ、たくさんの人から作品を講評していただきました。

映像を見るのは一人だけのものですが、映像を作るのはたくさんの人で作られていることに私は魅了されたのかなと思います。それはサッカーをやっている時と一緒にチームとなって協力していく。そのことが、まだ学生の私たちが映像を作る上で一番のやりがいでした。

これからも私たちが作った作品をたくさんの人に観てもらって、作品が姿、形変わることなく一人歩きしていくといいなと思っています。



卒業制作展

デザイン学科

グラフィックデザイン領域

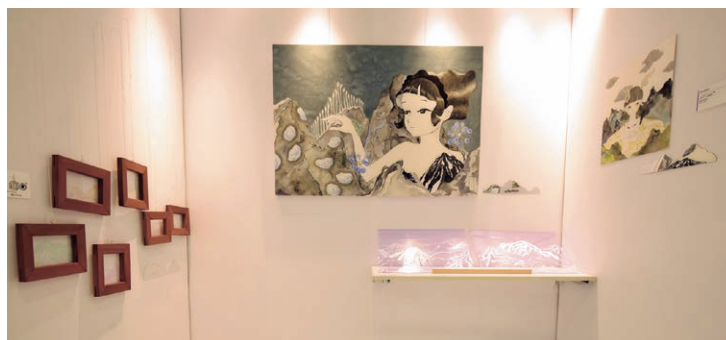


卒業のことば

卒業制作展

デザイン学科

イラストレーション領域

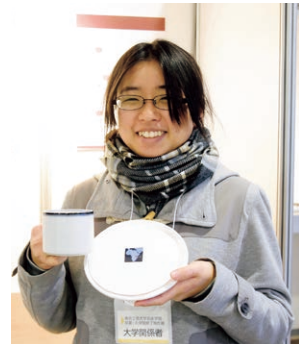


卒業のことば

卒業制作展

デザイン学科

映像情報デザイン領域

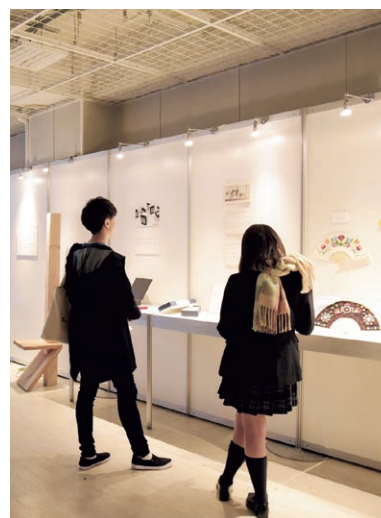


卒業のことば

卒業制作展

デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域



卒業のことば

卒業制作展 インタラクティブ メディア学科



卒業のことば

インタラクティブメディア学科 中島安奈

私の東京工芸大学での思い出は、幅広く友人や知り合いと出会えたことです。

東京工芸大学にいる間には、もちろん勉強でも、専門とした映像制作でも、たくさんの思い出がありますが、それ以外でも滅多にない貴重な体験が出来ました。1、2年生の時は厚木キャンパスで学園祭実行委員会に所属し、学部、学科の違う仲間が出来ました。その時には、学園祭を盛り上げるために外部の業者の方にお世話になりました。3年生の時は、1年生の授業のS.A.をして後輩と知り合い、4年生の時は、友人からの紹介で映像制作のアルバイトを始めました。後半の2年間はとくに映像

表現の勉強になりました。

大学以外では10歳の頃から続けているフラダンスのミスフラレファコンテストで素敵な賞を頂くことが出来ました。

どれも私一人では出来ませんでした。今の私があるのは、先生、友人、先輩や皆さんとのご縁があったからこそだと思います。大学ではたくさんの方達と繋がるきっかけを頂きました。4年間ありがとうございました。





卒業のことば

大学に入ったけど、特にやりたいことがない。目標がない。そういった考えの人は少なからずいらっしゃると思います。私もその一人でした。今もはっきりと目標をいえるかは怪しいですが、今まで制作を続けてこられたのは、様々な人との出会いがあって、小さな目標をいくつも見つけられたからです。

それが一番、工芸大に来てよかったなと思うことで、大学には人とのつながりを増やすきっかけがありました。そのきっかけとは、大学でおこなわれる様々なイベントに参加することでした。参加してみると思いがけない出来事があったりして、自分の知らない誰かに自分を知ってもらう、興味をもってもらうことができました。出会う人は様々で、志が高く技術の習得にひたむきな人、過ご

アニメーション学科 小西宙矢

した文化が違う人、自分と同じ悩みを持った人——

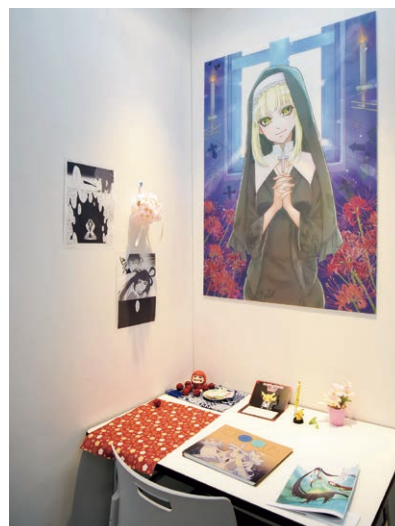
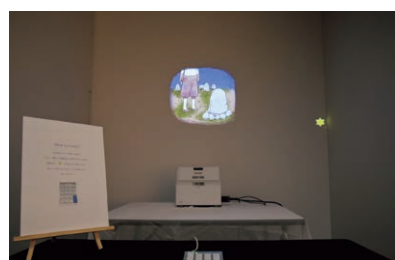
色々な人と出会って、視野が広がる、自分を客観的に俯瞰的にみることができるようになってきて、自分の悩みに対しても開き直って考えられるようになってきました。これからも多くの人と出会うでしょうが、そのたびに影響を受けて、小さな目標が生まれ、今のように進んでいけるのではないかと、そう考えるようになりました。

将来、つまりくこともありますが、これからも人との出会いを大切に様々な影響を受けながら、自分らしく生きていければいいなと思います。



卒業制作展

マンガ学科



卒業のことば

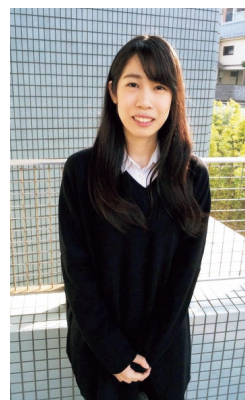
大学生活は、あっという間の四年間でした。厚木キャンパスへの通学に片道二時間かかったことや、学校内で迷子になったことはいい思い出です。

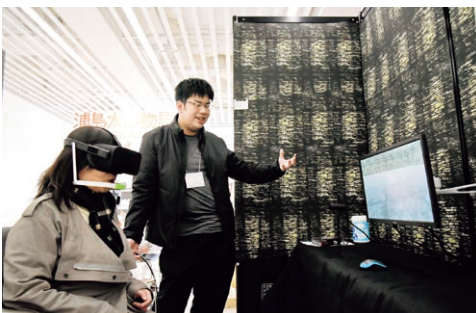
マンガを描くことは楽しいことばかりではなく、アイデアが出ずに夜通し考えたり、自分が思った通りに描けなかったり、いろいろと悩みました。また、友人と比較して落ち込むことや自分の技術力の無さに歯がゆい思いをしました。しかし、たくさんの作品を描くことで、マンガでしか学べない表現力や面白さを勉強することが出来ました。マンガを学べる楽しさや友人たちと過ごした時間は私にとってかけがえのないものになり、人間として大

マンガ学科 青山 唯

きく成長出来たと思います。

そんな努力の甲斐があり、学長賞をいただくことが出来ました。お世話になった先生方や友人たち、家族に感謝の限りです。特に研究室でご指導いただいた、よしまさこ先生には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。これからは社会人として、東京工芸大学の名に恥じぬよう努力していきたいと思





卒業のことは

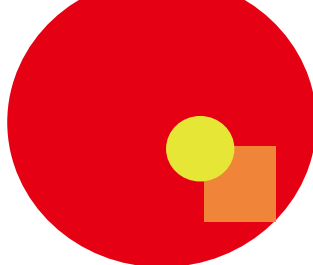
ゲームを作りたい、ただそれだけの理由で東京工芸大学に入学した私が、今や大学を卒業となってしまいました。この4年間の大学生活は私にとって実に長かったような気がします。それは嫌な長さではなく充実した長さでした。ゲーム学科で学んだことはとても多く、難しくもあり私の人生にとって新鮮な経験となっています。私は卒業制作も含め3回のゲーム制作を行い、いずれも完成させることができました。ですが、遊んで面白いと思うゲームを具体的に明確に形にするのは、どのゲーム制作でも簡単なことではありません。悩んで捻り出し、練り直す、完成したゲームの制作過程では様々なことが起き、たった4年間で学びきれものではありませんでしたが、

ゲーム学科 新井貴寿

できる限り習得しました。

縁あって私は製菓会社へ就職します。ゲームとは関係のない業界ではありますが、ゲーム学科で学んだことが無駄になるとは全く思いません。教授方には製作者としてどうあるべきかを教えていただき、共に過ごした学友とは多くの困難に立ち向かいました。ここで学びゲームを制作した経験は、私が何かを生み出すことがなくなるまで生き続けるでしょう。ありがとうございました。またどこかで会いましょう。





2018フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第39回を迎えることになりました。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。本年度の応募者は53名、応募作品数は79点でした。

第一席には、写真学科4年生、松村誠也(マツムラセイヤ)さんが選ばれました。大阪あいりん地区(旧称釜ヶ崎)で撮影されたドキュメンタリー作品「釜ヶ崎ものがたり」はボランティア活動を通じて撮影されたもので、路上生活者と支援者との交流を中心としたヒューマンな内容です。この地区を捉えた過去の名作との比較から現代的な感覚が読み取れるカラー作品で、審査員一同に支持された作品です。

文：田中 仁 教授

(フォックス・タルボット賞運営委員長)

2018フォックス・タルボット賞は1月24日に審査が行なわれ、下記の方々が受賞しました。

2018フォックス・タルボット賞 入賞作品発表

| | | | |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 第一席 | 釜ヶ崎ものがたり | 松村 誠也 | 芸術学部写真学科4年 |
| 第二席 | 遥かなる彼岸 | 栗田 洸洋 | 芸術学部写真学科4年 |
| 第三席 | 君の街まで | 神田 萌野 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | Booooooooooom! | 建部 隼人 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | 僕が僕であるために | 浅野 吏 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | 街角レゾナンス | 原部 賢治 | 芸術学部写真学科3年 |
| 佳作 | 幸せをカタチに | 森野 牧 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | マキオ | 岩佐 真依 | 芸術学部写真学科4年 |
| モノクロ賞 | Bolero／美しさと儂さの15分 | 林 真奈 | 芸術学部写真学科4年 |

審査委員の先生方 田沼武能(委員長) 細江英公 中谷吉隆 立木義浩 小林紀晴 (敬称略)

細江英公先生 旭日重光章受章記念写真展開催

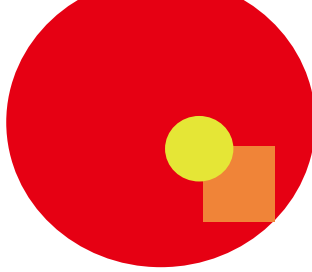
平成29年秋の叙勲で、本学同窓会顧問の細江英公先生が旭日重光章を受章しましたが、その受章記念写真展が写大ギャラリーで1月22日～3月23日まで開催されました。初日の22日にはオープニングパーティーが開催され、あいにくの大雪のなかででしたが、大勢の関係者がお祝いに駆け付けました。

冒頭に義江学長がお祝いの言葉を述べた後、細江先生は次のように挨拶しました。



細江英公先生 この章は11月3日に宮中に参りまして、総理大臣から直接この章をいただきました。ですが、私自身、章をいただけるほどのことをやってきたのかな、と疑問に思ってしまう。自分としては、写真が好きで、それを好きなまま今日まで続けてきただけで、いわば自分勝手にやってきたわけです。ですから、人に褒められたりするような作品を作っているつもりはないのですが「良い作品」と褒めて下さることはありがたく、また勇気づけられますし、こんな贅沢なことはないと思っています。自分の好きなことで皆さんに喜んでいただけるような仕事ができることを幸せだと思い、精一杯、恩返しをしたいと思います。この後、写真家の中谷吉隆先生の乾杯の音頭でパーティーへと移りました。





平成29年度 学位授与式・卒業祝賀会

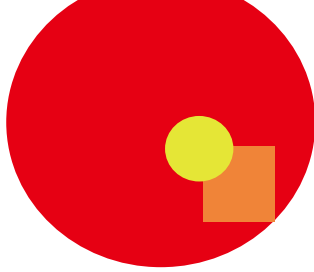
2018年3月20日、平成29年度学位授与式が執り行われ、式典の後には、後援会と同窓会共催の卒業祝賀会が開催されました。東京都心では3日前に異例の早さで桜の開花発表がありました。この日はあいにくの肌寒い雨模様。しかし会場の中野サンプラザでは希望に満ちた卒業生の笑顔の花が満開になりました。

学位授与式では、義江龍一郎学長からは中国の唐の時代の詩人・李白の「天、我が材を生ずる。必ず用あり。」という言葉を用いて卒業生にエー

ルが送られました。同窓会田沼武能会長からは、「しあわせは自分の手で勝ち取って、夢多き青春を送って下さい。」と力強いメッセージがありました。

卒業祝賀会では、おいしい料理と飲み物を手に、卒業生、先生たちが和気あいあいと談笑のひとときを楽しみました。恒例の学科ごとの集合写真撮影も行われ、あっという間にお開きの時間がきました。この時撮影した写真は期間限定で同窓会ホームページよりダウンロードできますので、ぜひご覧ください。

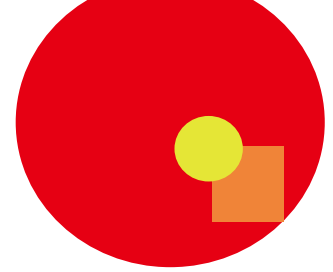




卒業祝賀会



盛大に開催



ひろばのページ

|30期同期会

卒業して63年が経ち同期会も10回目になり久し振りに平成29年10月26日に、東京銀座「がんこ」で開催した。この会も平成6年の2回目には参加者も60名でしたが、みんなが年を重ねるのにしたが今回は17名でした。それでも遠方の広島、土浦からも足を運んでもらい感激でした。宴会は杯を重ねる毎に声も大きくなり、気持ちだけは学生時代に戻って賑やかな楽しい時間を無事過ごしました。

さて、“次回はどうしよう”の話になり幹事も益々大変。そこで提案されたのが同窓会会報「ひろば」でPRされている①卒展×同窓のつどい、②ホームカミングデーなど同窓会行事に参加し、若い人達との交流も出来るし、その上に2次会を近所の会場を幹事が設定すれば幹事の負担も少なく通信費も大いに削減出来るのではと提案された。今後、幹事会で検討することになった。



第10回幹事
藤森 進(30期)

第10回幹事
藤森 進(30期)

|第35期写真工業科製版技術専攻同期会

12月第1金曜12時開始を定例とした仲間が、銀座8丁目「久保田」で1年ぶりに再会。銘酒と郷土料理



を肴に学生時代を懐古した。次回：平成30年12月7日(金)12時から。

宮内 辰蔵(35期)

|平成30年度入学式

2018年4月4日、中野サンプラザホールにて、平成30年度の入学式が挙行されました。芸術学部には762名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。



|34期写真工業科同期の集い

当会では、毎年12月の第2土曜日を同期会の日と定め、以来絶えることなく開催してきましたが、平成29年12月9日(土)に実施した結果、なんと35年目を迎えるに至りました。

今回も、相沢忠勝・末次祥宏の両氏が幹事を担当くださり、新宿のライオン会館「安具楽」での開催となりました。同期の仲間は52名ですが、全員が傘寿を越える年代に到達しているためか、参加者は11名という結果になりました。それでも会えば同期生、1年振りの再会を喜び、学生時代の昔話や現況報告に花が咲き、大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。

次回は、本年12月8日(土)13時から、今回と同じ新宿駅東口のライオン会館「安具楽」で開催いたしますので、どうぞよろしく。
川名 晴美(34期)



|卒業生・在学生の活動が新聞記事で紹介

①鈴木 克明さん(40期 写真技術科) 写真のたなかや 夫の腕 妻の話術「書類合格率90%」朝日新聞 2017年8月9日

鈴木さんが社長を務める「写真のたなかや」は“伝説の写真館”と呼ばれています。撮影した写真を就職の書類に添えると試験に合格すると評判です。「お客様の想像を超える写真で感動してもらいたい。」と鈴木さんは語っています。

②東京工芸大学の学生有志の皆さん
岩手日報 2018年3月

東京工芸大学の学生有志が、大船渡市の三陸鉄道南リアス線三陸駅のホームにつながる階段の壁に、海をイメージした絵を描いています。駅利用客が毎日明るい気分になることを願って活動しています。

展示会・出版の記録

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期



展：Assembling Infinity_03
作：横井 史哉
(91期写真学科)
所：Alt_Medium
期：2017.10.19-10.24



展：Melt the ice cream
作：黒田 実里
(87期大学院博士前期)
所：Alt_Medium
期：2017.10.27-11.8



展：空の彼方 古への誘い
作：佐伊(吉野)郁子
(42期写真技術科)
所：ギャラリー明神下
期：2017.10.19-10.24



展：THE WALKER
作：石田 紘一
(39期写真技術科)
所：ポートレートギャラリー
期：2017.10.19-10.25



展：子どもは時代の鏡
作：田沼 武能
(24期写真技術科)
所：ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1+2
/ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
期：2017.10.31-11.20/2017.12.14-2018.1.10



展：名もなき話
作：勝倉 峻太
(75期写真学科)
所：nap gallery
期：2017.11.25-2018.1.14



展：Club 銀燕チャリティ鉄道写真展 2017
作：荒川 好夫(42期写真工業科)
高木 英二(57期写真技術科)
米屋 こうじ(64期写真技術科)
小林 大樹(88期写真学科)
所：セシオン杉並(展示室)
期：2017.12.5-12.12



展：ゾーンシステム研究会 第21回写真展
作：中島 秀雄(43期写真技術科)
所：ポートレートギャラリー
期：2017.12.14-12.20



展：CAMBO
作：佐藤 倫子
(写真技術科67期)
所：ピクトリコギャラリー
期：2018.1.9-2.3



展：ハコのなか
作：中里 楓
(88期写真学科)
所：ゴールデン街 こじり
期：2018.2.1-2.15



展：おとこと女
作：細江 英公
(29期写真技術科)
所：JCII PHOTO SALON
期：2018.2.27-4.1



展：出発地点に立ってみた
作：金守 奏(91期写真学科)
中谷 風花(90期写真学科)
所：ギャラリー2549
期：2018.3.17-3.21



展：蠢く街 新宿 What 1955-2017
作：中谷 吉隆
(32期写真技術科)
所：ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1+2
/ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
期：2018.3.20-4.9/2018.4.19-5.9



展：刑務所の「いま」を知る写真展
作：松村 誠也(93期写真学科)
木村 戒、鬼頭 祐輔、佐藤 海帆、生原 かれん(写真学科4年生)
横山 渚(写真学科3年生)
所：日比谷図書文化館1階 特別展示室
期：2018.4.1-4.7



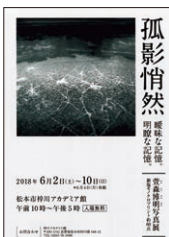
展：さくら -東京駅で出会ったちいさな宝物-
作：金森 玲奈
(78期写真学科)
所：Roonee247 fine arts Room1-2
期：2018.4.17-4.29



展：風が吹き、土に着く
作：菅泉 亜沙子
(88期写真学科)
所：Alt_Medium
期：2018.4.29-5.6



展：NO EXCUSE
作：伊藤 真吾
(83期写真学科)
所：CANON GALLERY銀座/
CANON GALLERY名古屋
期：2018.5.10-5.16/5.31-6.6



展：孤影悄然
作：菅森 博明
(52期写真技術科)
所：松本市梓川アカデミア館
期：2018.6.2-6.10



展：航跡図
作：篠田 優
(88期写真学科)
所：Alt_Medium
期：2018.6.28-7.10



展：人間写真家 細江英公「旭日重光章」
受章記念写真展
作：細江 英公(29期写真技術科)
所：写大ギャラリー
期：2018.1.22-2.23



展：梁丞佑写真展「人」
作：梁丞佑
(81期大学院博士前期)
所：写大ギャラリー
期：2018.4.16-6.10

訃報

衷心よりお悔み申し上げます。

| | |
|-------------------|--------------------|
| 城島 政義 (17期・理学科) | 神宮 多喜男 (32期・写真技術科) |
| 児嶋 昭雄 (24期・写真工業科) | 笥 文郎 (34期・写真工業科) |
| 田村 邦雄 (24期・写真工業科) | 茶谷 茂 (35期・写真技術科) |
| 田山 幸男 (27期・写真技術科) | 西山 弘一 (39期・写真技術科) |
| 渡辺 由三 (27期・写真工業科) | 高本 裕久 (43期・写真技術科) |
| 後藤 九 (28期・選科) | |

(敬称略)
訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

東京工芸大学名誉教授であり、前学長の若尾 真一郎氏(享年75歳)が、2018年4月11日(水)に逝去されましたのでお知らせいたします。

若尾 真一郎氏は、生前、学長として大学の教育・研究活動の発展に多大な貢献を果たされたほか、学校法人東京工芸大学の理事として大学運営に尽力されました。

ここに故人のご冥福をお祈りするとともに謹んで哀悼の意を表します。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

同窓生の皆様、はじめまして。88期(芸術学部16期)卒業生の菅泉 亜沙子です。現在写真学科の助手として工芸大学に勤めており、ひろばの制作に携わることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私事ですが、先日、写真展を開催致しました。先生方はじめ現役の学生から卒業生の方々までたくさんの方にお越しいただきました。特に卒

業生の皆さんは普段なかなか会うことができない方も多く、またこうして写真の前で再会できたことが大変嬉しかったです。写真が繋げてくれた縁を実感し、写真をやってよかったなど改めて思いました。

菅泉 亜沙子(88期・写真学科)